

学年・教科：小4国語

単元名：「初雪のふる日」

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
1	<p><くめあて> 本文を読み、感想を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を確認 ・読んだあとの感想を簡単に書く。 ・漢字の読み、わからない語句を説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文を読みながらファンタジー物語の構成を考え、「異世界への入り口」を探す活動を楽しんで行っていた。 ・今まで何気なく読んでいた物語の中に、「ファンタジー」というジャンルがあること初めて知り、「へえ、これがファンタジーなんだ！」と感動をしていた。 ・図書館から借りてきた本に付箋を付けながら、「異世界への入り口と出口」を楽しく探すことが出来ていた。 	
2	<p><くめあて> 本文を読み、ファンタジー物語としての根拠となる表現を見つける。</p> <p>①現実の世界（はじまり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現実設定（物語の舞台）を確認する。 ・異世界への<u>入口</u>を見つける。 <p>②現実とは違う異世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異世界設定を確認する。 ・異世界の<u>出口</u>を見つける。 ・異世界と現実の違う特徴をまとめる。 <p>③現実の世界（おわり）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「目的を持って読む」という新しい読み方を経験することが出来た。 ➡教科書の本文以外のファンタジー物語にも触れるために、図書館にある類似の物語を読む。 ・1時間目に引き続き、くり返しファンタジー物語の構造を分析したことで、より理解が深まった。（ワークシート②使用） ・「この物語のどこに異世界への入り口が隠されているのだろうか？」と、子ども達は興味津々で、他のファンタジー物語を主体的に読み進めていた。 ➡「読書の世界」を広げることが出来た。 	
3	<p><くめあて> ファンタジー物語の秘密を探ろう！</p> <p>①これまでに読んだ話の中に、同じような異世界へ行く話はないか思い出す。</p> <p>②図書館から、主人公が異世界へ行く他の作品を借り、ファンタジー物語の構造と、場面転換で使用される表現を、ワークシートにまとめる。</p> <p>【家庭学習】 本読みとワークシート②を完成させてくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストームが役に立ち、ワークシート③に「異世界への入り口と出口」がきちんと含まれているあらすじが書けていた。 	
4	<p><くめあて> ファンタジー物語を書く準備をしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題で分析したものをグループで共有する。 ・どんな物語にするかブレインストームし、設定を考える。 -はじめの場面を考える。 -異世界の場面を考える。 -戻ってきた現実の世界を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語で書きなれない子どもでも、つたない文章ながら「ファンタジー物語の構造」のポイントを押さえて書くことができていた。 ・子ども達の感想の中に、「物語を考えている時が楽しかった」という記述があった。そういう時間を作れたことが良かった。 ・教科書の物語だけに留まるのではなく、そこから出て、他のファンタジー物語や様々なジャンルの物語にふれることができた。 	
5	<p>【家庭学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を完成させてくる。 ・自分の書いたものを読む練習 ・保護者に完成した物語を読み聞かせ、一言コメントを依頼。 	<p>【家庭学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント配布やメール等により、授業内容や目標を保護者にも共有したことにより、家庭での支援を得やすかった。 ➡保護者が「何を、どこまで、どのように」支援したら良いのかが分かりやす 	

		<p>かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に原稿用紙に書いた物語を、自宅で保護者に読んで貰い、授業の目標に基づいた評価観点に沿ってコメントを入力してもらった。 ・授業時間内では時間が足りない子ども達は、家庭で保護者から、「誤字脱字の手直し、”てにをは”を整える、段落をつける」などの支援を受けることができた。 	
6	<p><めあて> 作った物語を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの作った物語を聞き合い、感想を伝え合う。 ・学習のふり返しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの個性がひとつひとつの物語に表れていて、友達同士でも「～さんの話を読んでみたい！」と、相互理解が生まれ、クラスの輪が広がった。 ・友達の発表を聞いた後に「僕も漢字、練習しなきゃ！」と、今後の学習へのモチベーションに繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた物語の構成と表現をふり返るためのルブリックを作成すると良かった。
<p>伸ばせた力、子どもの変化、保護者の反応など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新しい読み方を学べた」「どうしてこういうことが起こるのだろうと考えながら、読むことが出来た。」など、子ども達が楽しみながら主体的に学ぶことが出来た。 ・子どものふり返し（ルブリック）で、「書けたことに満足していた」「読んだことに満足していた」に〇を付けた子ども達多かったことから、達成感を感じられた子ども達が多かったことが分かった。 			
<p>所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生では物語を創作する単元がないので、今回の創作活動は子ども達にとって新鮮味があり、思っていたよりも子ども達が興味を持って楽しく取り組みことができた。 ・子ども達は「面白いこと」を考えることに抵抗がなかったと分かった。そして、「読み」と「書く」の連動がスムーズにできた。 ・指導者としても単元全体を通して、非常に楽しく取り組むことが出来た。また、単元の目標を達成するために、いろいろな新しい試みに挑戦することができて良かった。 			